opusdei.org

## 黙想の祈り:年間第2 主日(B年)

黙想のテーマ:「主に導く仲介者」「人生を変える出会い」「喜びを分かち合う」

主に導く仲介者

人生を変える出会い

喜びを分かち合う

今日の日曜日の典礼は召し出しについて語ります。第一朗読はサムエルという神殿に住んでいた少年の召し

出しについてです。ある晩寝ている と、誰かが三度、彼の名を呼びまし た。その度に彼は祭司エリのもとに 行きます。エリが彼の名を呼んだと 思ったからです。三度目にサムエル がエリのもとに行った時「エリは、 少年を呼ばれたのは主であると悟 り、サムエルに言った。『戻って寝 なさい。もしまた呼びかけられた ら、〈主よ、お話しください。僕は 聞いております〉と言いなさ い』 | 。それ以来サムエルは主の声 を聞き分けることを学び、預言者と なりました。福音書も似たような場 面を提示します。洗礼者ヨハネはイ エスが歩いているのを見て二人の弟 子に言いました「見よ、神の小羊 だ | (ヨハネ1・36)。二人はイエス に従い、イエスと共にその日を過ご した後、イエスがメシアであると認 めました。続けて彼らは他の人々に 自分がメシアに出会ったことを伝 え、このようにしてイエスの最初の

弟子たちのグループが生まれました。

これら2つのテキストでは「仲介者 の役割を果たす人の重要性が強調さ れます。仲介者は、召し出された人 が神の声を聞き分け、これに従うの を助けます | m。サムエルと二人の 弟子はエリと洗礼者のおかげで主を 知ることができました。神は自身の 呼びかけを示すために人を用いま す。第一に「両親が果たす根本的な 役割」があります。「両親は、自ら の真正で喜びに満ちた信仰と、結婚 の愛をもって、神への愛に基づいて 全生涯を築くことがすばらしく、ま たそれは可能であることを子どもた ちに示すのです」[2]。それゆえ聖ホ セマリアはよく、オプス・デイのメ ンバーの召し出しは99%彼らの両親 に由来すると、話していました図。 それに加え友人や〈長男〉の証は、 私たちの視野を広げ、私たちがキリ ストの塩となり光となるための後押

二人の弟子、ヨハネとアンデレはイエスに彼がどこに住んでいるのかを尋ねます。この問いかけは憧れから来るものだったかもしれませんし、好奇心から来るものだったかもしれません。主は彼らに言います:「イエなさい。そうすれば分かる」。イエスは彼らに詳しい情報を与えませ

ん。その一方で彼らが自分のもとに 来るよう、もっと深くイエスと関わ るよう招きます。彼らは招きに応え ます:「そこで、彼らはついて行っ て、どこにイエスが泊まっておられ るかを見た。そしてその日は、イエ スのもとに泊まった」。この出来事 に感銘を受けたヨハネは後に福音書 を書いた時までその時刻を覚えてい ました: 「午後四時ごろのことであ る | (ヨハネ1・39)。「この箇所は わたしたちに考えさせてくれます。 多くの出会いが忘れ去られてしまい ますが、イエスとの真の出会いはい つまでも記憶に残ります。そしてこ の二人は何年も後に、時間さえも思 い出します。あれほど幸せで、完全 で、自分たちの人生を変えた出会い を、忘れることなどできません |

もしかしたらヨハネとアンデレは、 はじめ、明確で具体的な答えを得る ことを期待して、イエスに近づいた

[4]0

のかもしれません。そしてあとで必 要な時にそこを訪問しようと考えて いたのかもしれません。福音書に は、明確な答えを得るためにイエス に近づいた人々が描かれています。 例えば金持ちの青年は次のように尋 ねました:「先生、永遠の命を得る には、どんな善いことをすればよい のでしょうか (マタイ19・16)。 このような問いかけに対し常に主は 質問者が自身により近づくよう、自 身と人生と命を分かち合うよう招き ます。なぜならそれが私たちの幸せ への渇望を満たしてくれる唯一の理 想だからです。「わたしたちは多く のことを体験し、多くのことをやり 遂げ、多くの人と関係を築きます が、イエスとの出会いだけが一それ がいつなのかは神がご存じです一わ たしたちの人生に完全な意味を与 え、わたしたちの計画や取り組みを 実り豊かなものにすることができる のです | 🕫 結婚であれ、使徒的独 身であれ、どんな召し出しにおいて

も、私たちは神と人生と命を分かち 合い、それらを他者に与えるよう呼 ばれています。後に福音書を書きな がらヨハネが自己の人生を振り返っ た時、彼は自分のキリストとの出会 いを何ものにも代えがたい決定的な 出来事として振り返ったことでしょ う。

ヨハネは、キリストとの出がでいた。 との出がそれがした。 とのにあた行動を書きいたです。 でアレは兄弟のアと言いでででいた。 でアレは兄弟のアレはでででいた。 でアレはます。 でアレはます。 ではエスペーとではエスペーでもます。 ではなるでいる。 ではなるでいるでいた。 ではなるでいるでいた。 ではなるでいるが、 では彼を見いているが、 であるが、 〈岩〉という意味一と呼ぶことにする』と言われた」(ヨハネ1·42)。

何か良い知らせを受けた時、または 何か喜ばしいことが起きた時、人は それを自身が愛する人と共有しま す。周囲の人々と喜びを分かち合う ことは喜びを倍加させます。アンデ レや他の使徒たちはこのような心境 でメシアを人々に告げ知らせまし た。彼らにとって福音を広めると は、単に教わったことを他者に伝え ることではなく、彼らを喜びに満ち 溢れさせる事実を他者と共有するこ とでした。それゆえ聖ホセマリアは 言います:「この世の直中に住んで いるあなた、良いとか悪いとか言わ れている人々と接触を保ちつつ生き る社会人であるあなた…、そのあな たは、キリスト者であるゆえ有する 喜びを人々に与えたいと常に望んで いなければならないしぼる

聖母マリアは親戚のエリザベトにメシアを授かった喜びを届けまが彼しまがでは主が彼かれる一方の賛歌では主が彼みがした。女に行った業を賛美し、神の憐まれるした。「私たるを照)。「私たるを照)。「私たらの人に届くことを歌いた。」ができます。ないとのできます。ないとのすが、私たちのすが、ものすが、私たちのずかって欲しいと願うのです」「河。

[1] ベネディクト十六世「お告げの 祈り」でのことば、2012年1月15 日。

[2] 同。

[3] 聖ホセマリア、対話、104番参照。

- [4] フランシスコ、「お告げの祈り」でのことば、2021年1月17日。
- [5] フランシスコ、「お告げの祈り」でのことば、2018年1月14日。
- [6] 聖ホセマリア『拓』321番。
- [7] 聖ホセマリア『知識の香』144 番。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/meditation/mokusou-nenkann-2shujitu-b/(2025/11/20)